

社会	第3学年	1年間の学習内容とねらい
----	------	--------------

社会科の目標		学 習 内 容	学 習 の ね ら い
(1) 広い視野に立って、社会に対する関心を高める。 (2) 資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。 (3) 公民としての基礎的教養を養い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	一 学 期	《歴史》 ○二度の世界大戦と日本 ・第一次世界大戦と日本 ・世界恐慌と日本の中国侵略 ・第二次世界大戦と日本 ○現代の日本と世界 ・戦後日本の発展と国際社会 ・新たな時代の日本と世界	・明治新政府の諸改革の特色を捉える。 ・日本で近代産業が発展したことを、大陸との関係や国内外の反応、韓国の植民地化などから理解する。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解し、民族運動の高まり、国際平和への努力、わが国の政治的自覚の高まりに気づく。 ・昭和初期から、第二次世界大戦集結にいたるわが国の歴史の経過を理解するとともに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ・国際社会に復帰するまでのわが国の民主化と再建の経過や、国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解する。 ・高度経済成長以降のわが国の動きを世界の動きと関連させてとらえる。
	二 学 期	《公民》 ○私たちの世界と現代社会 ・現代社会と私たちの生活 ・私たちの生活と文化 ・文化の継承と創造 ○人間の尊重と日本国憲法 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障 ○現代の民主政治と社会 ・現代の民主政治 ・国の政治のしくみ ・地方の政治と自治 ○私たちのくらしと経済 ・くらしと経済 ・生産と労働 ・価格の働きと 金融 ・国民生活と福祉	・自分達が生きる現代社会を概観し、学ぶことで、公民的分野への関心を高める。 ・日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがみられ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることを理解する。 ・日本国憲法の基本理念（国民主権、平和主義、基本的人権の尊重）を、社会の形成者としての立場から理解し、個人の尊厳と両性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づく。 ・国会を中心とする日本の民衆政治のしくみのらましや、地方自治の基本的な考え方について理解する。法の意義や法に基づく公正な裁判の保障について理解する。 ・経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解する。 ・市場経済の基本的な考え方を理解し、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について理解する。
	三 学 期	○地球社会と私たち ・国際社会と地球平和 ・国際問題と私たち ○よりよい社会をめざして	・国際社会が抱える諸問題について関心を高め、その解決のために国際的な努力について理解させる。 ・国際社会における日本の役割やあり方について考察する。 ・持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を見だし、それを意欲的に探求し、自分の考えをレポートとしてまとめる。
	評価の観点・方法 【評価の観点】 社会科では、次の4つの観点で目標がどれだけ達成されたかにより、評価します。 ①社会的事象への関心・意欲・態度 ・社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。 ②社会的な思考・判断・表現 ・社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的。多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 ③資料活用の技能 ・社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④社会的事象についての知識・理解 ・社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。 A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する 【評価の方法】 ☆定期テスト ☆作品・レポート・ノート ☆授業の活動・態度 ☆自己評価 等活用して評価します		
特色ある学習方法 ☆本校社会科では ①興味関心のある課題を設定し、主体的な学習を促す学習指導を行っています。 ②生徒が主体となるような多様な学習形態を工夫しています。 ③新聞作り、レポート作成、調査活動などを取り入れ、生徒の個性伸長を図ります。			